



生物多様性の危機・私たちにできること

世界的な「生物多様性ホットスポット」である長野県ですが、今、その足元は4つの危機に直面しています。開発や乱獲による「第1の危機」、外来種や化学物質による「第3の危機」、気候変動による「第4の危機」。そして今、県内で特に深刻化しているのが、人間活動の縮小による「第2の危機」です。かつて人の手で維持されてきた里山や草原が放置され、藪化したり、ニホンジカ等の分布拡大によって植生が衰退したりしています。

県の生物多様性ポータルサイト「信州いきものがたり (<https://www.shinshu-ikimono.pref.nagano.lg.jp/>)」にもある通り、かつて広く見られた「半自然草原」は激減しました。しかし、私たちは身近な場所に、新たな希望の光を見出すことができます。それはスキー場やゴルフ場です。レジャー施設として知られるこれらの場所は、夏場に草刈りが行われることで、草原環境が維持されています。実はこれらが、失われつつある草原性の希少な動植物にとって、最後の逃げ場所（レフュージア）として機能している事例が数多く確認されているのです。

● 私たちにできること

「食べる・使う」で守る ジビエ（シカ肉等）の消費や、県産木材・農産物の利用は、適正な個体数管理や里山の維持管理（経済的な循環）に直結する保全活動です。

新たな視点で楽しむ スキー場やゴルフ場を訪れる際、そこを「貴重な草原生態系」として眺めてみてください。足元の花や昆虫に関心を持つことが、その場所の価値を高め、維持管理を後押しする力になります。

正しく恐れ、持ち込まない 外来種（特定外来生物のオオハンゴンソウ等）を広げないよう、アウトドアに出掛ける前には靴底の泥を落とす等の基本を徹底しましょう。

生物多様性の危機は、遠い世界の話ではありません。まずは足元の自然の「機能」と「現状」を正しく知ること。それが、信州の豊かな自然を未来へつなぐ第一歩です。

（高野 宏平／自然環境部）

写真 夏季には多くの訪問客があり、冬季にはファミリー向けのスキー場が開設される霧ヶ峰。縄文時代から野焼きによって半自然草原が維持されてきたと考えられているが、野焼きの停止により森林化が進んでおり、貴重な草原生態系の維持が課題になっている。

1. 人間活動の増大

- ササユリ等の貴重な動植物が、観賞目的で**採取**され数が減少
- 多くの登山者によって、道沿いの植物が**踏みつけ**られる被害

2. 人の関わりの減少

- 牧畜や屋根に草が**利用**されなくなったことで草原がなくなり樹林化
- 狩猟者減少に伴う**シカ**増加で農作物や高山植物の**食害**増

3. 外来種の増加

- 外来植物の繁茂による在来種の**被圧**
- ブラックバスによる**漁業被害**やヤゴ等の水生生物の**捕食**
- オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの**交雑**

4. 地球環境の変化

- 温暖化により、ライチョウ等の**生息適地**が**縮小**
- 温度変化により、**花の咲く時期**や**実のなる時期**が、**送粉者**や**種子散布者**の活動時期と**ずれる可能性**

日本の生物多様性を脅かす4つの危機

